

陽がまだ見えない時間に、自転車で家を出た。

目的地は遠くに見える裾野の広い山の、そのまた奥の町の。

有名な町ではない。しいて言えば陶器とさつまいもが名産品の、なんとも味気の無い、町。僕はそこを目指す。

片道七〇キロの道程を自転車で行く。

十分もしないうちに国道に入る。今回の自転車旅はこの道をまっすぐに行くだけだから、楽。昼間にはあれだけ車通りの多い国道は、早朝だと当たり前にとらんとしている。

もちろん歩道にも人の姿も何もない。

だから遠慮なしにスピーカーでラジオや音楽を聴きながら道を進む。

最初はラジオを聞いていた。ニュースを聞き終えてからは音楽を聴いた。

まだ陽の射さない暗い時間だ。まだサティが一番いい時間だ。

ゆったりとした、おだやかでしずかな音楽。ペダルを踏む力は自然とやわらいだ。

一時間ほどで遠くに見えていた山の裾野に着く。

ちょうどそのあたりで全四十五曲収録されたサティのアルバムもちょうど終わった。

車通りはだいぶ増えていた。太陽ももう昇ってきている。雲の中に隠れているが。

コンビニに寄る。はじめての休憩だ。無塩トマトジュースだけを買った。

朝食には自分で握ったおにぎりがある。明太子をまるまるそのまま入れた巨大おにぎり。

十分だけ朝陽が照らす山を見て、またこぎ出す。

そこからは洋楽をイヤホンで聴いた。

音楽があればそこからの五時間の道程もあつという間だった。昼頃に着いた。

もちろん空腹だった。足は疲れ果てていた。身体は肉を求めた。とんかつ屋に入った。

忙しさを理由にして雑な接客をしていそうな女将も、僕がとんかつ定食大盛りと単品カキフ

ライと単品エビフライと酸辣湯麺を頼んだ時は心配してくれた。僕は頷いた。

膨らんだ腹をさすりながら店を出て、どうしようかと考える。

予約している民宿は十五時からチェックイン可、だった。時間をつぶさねばならない。

駐輪場にいつまでもいつわけにもいかないので、とりあえず町を周ることにする。

和菓子屋、パン屋、喫茶店、呉服屋……駅、居酒屋、古着屋、眼鏡屋……。色々あった。

途中、尿意が催した。丁度、公園の横を通りかかったタイミングだった。

便所から出ると、幼稚園児くらいの子どもがひとりでした。中性的だった。

声をかけるべきかと悩む。しかしすぐに母親に名前を呼ばれたその子は親の下へ駆けた。

公園には子供より年寄りの方が多かった。

僕へベンチで横になった。腕を枕代わりにして空を見上げた。良い空だ、と思った。

次に目を開けると空は夕陽色に染まりかけていた。

……やってしまった………いや……まあ、こういうのもありか。